

情報委員会における議論の概要 (理化学研究所革新知能統合研究センター中間評価)

理研 AIP センターの中間評価に関する情報委員会の審議において、立ち上げフェーズとしてのこれまでの取組は高く評価された。

同時に、今後、理研 AIP センターが、次のフェーズに早期に移行し、世界の AI 研究をリードする存在に発展することへの強い期待が示された。

以下に、審議において述べられた意見のうち、今後の取組への課題や期待に関するものを挙げた。

(新たなビジョンや戦略の構築、明確化への期待)

- 理研 AIP センターには、我が国の中核的な AI 研究拠点として、どのような大きなビジョンを持って研究開発をしていくか、最終的にどのようなアウトプット、アウトカムを目指すのかに関する戦略を明確化(例えば、〇〇技術で世界トップを取り、その技術がスタンダードになっていくことを目指す等)し、AI 研究で国全体を牽引し、世界をリードする存在感を発揮することを期待する。
- AI 研究において、世界に向けてどのように日本のアイデンティティを発揮するかを明確にすることが求められる。つまり、世界に向けて AI 研究の新たな潮流を創出していくために、何を目指し、どのように諸外国と渡り合っていくのかについて、明確なビジョンとシナリオの策定が求められる。特に、日本のアイデンティティの明確化の探求により、AI 研究において国際的に突出して強い領域を創出し、世界をリードすることが望まれる。
- 新しい AI 研究の潮流が、どのようにイノベーション創出につながっていくのか、その道筋を明らかにし、また、そのための仕組みを構築することが求められる。そのような実践を通じて、多様なニーズを有する社会とつながることで AI 研究の方向性を広げられると確信する。産業界との連携は、成果の応用、実装することだけを目的とするのではなく、逆の方向から社会ニーズの抽出を通じて、新たな研究分野や研究対象等の発掘に繋がる効果もある。
- 全体を統括するビジョンが明確ではない現状においては、AI に関係するものは全てを研究対象とするかのような傾向を感じさせてしまい(企業との連携に関しても同様)、その結果、個々の独立した研究者を外形的に束ねただけのように捉えられる。明確なビジョンの下で、若手研究者を育成するための方向性を明らかにし、若手研究者が広い視野で育つ環境及び体制の整備が待たれる。

(日本全体の AI 研究中核拠点としての発展への期待)

- 我が国には、理研 AIP センター以外にも大学や研究機関に多くの AI 研究者が存在する。そのような中、理研 AIP センターが、今後の日本の AI 研究をどのようにリードしていくかについての方策を明確化し、それを社会や各界に積極的に発信することにより、これら日本各地の AI 研究者を牽引し、連携を強化していただきたい。

そのことにより、ひいては我が国全体としての AI 研究力の向上が図られることを期待したい。その際、AI 研究開発ネットワークの有効な活用方策についても明確化してほしい。

- また、研究者レベルの連携に留まっているサブ拠点については、これを組織間の連携に高め、さらに強固な連携に発展させることが重要である。
- 日本全体の AI 研究中核拠点として、研究の成果や開発した技術を広く社会に還元していく方策について、基盤的なプラットフォームの構築も含め、具体的な手法を提示し、社会におけるプレゼンスを高めてほしい。

（戦略的なマネジメントへの期待）

- 明確化されたビジョンや戦略の下、理研 AIP センター全体の研究チームや組織の再編を行い、従来以上に国際競争力を有する研究拠点の構築が行われるべきである。
- 特に、組織マネジメントの財政的な観点からビジョンや戦略立案に関連して留意すべきこととして、限られた予算の下で、研究テーマが多岐にわたると、研究テーマ毎の研究者の配置およびデータ整備に関して財政的に不十分になる懸念が多分にある。その観点から、戦略を十分に検討した上で、メリハリをつけた資源配分を行うことが重要である。

（新たな評価への期待）

- 理研 AIP センターでは、プロジェクト評価の主な指標として論文数、あるいは当該分野で認知度の高い国際会議等での論文採択状況等が用いられている。その傾向は、これまでの他の事業等でも採用されてきた実績評価指標、プロジェクト達成に係るエビデンス等の域を脱していない。理研 AIP センターの中間評価に係る提出資料においても、これら従来の評価指標に拘り過ぎているきらいがあり、新たな AI 研究の潮流を創出していくという本事業の趣旨に制約を課してしまっているのではないかと懸念する。

（新型コロナウイルス感染症への対応への期待）

- 新型コロナウイルス感染症の流行によって新たな社会的課題が多数生じ、社会や産業の構造を大きく変えることが想定される。その変化を見据え、ICT や AI 技術でどのような対策を講じることができるかについて正面から取り組み、その成果を国際的に発信し、理研 AIP センターの存在感を高めていただきたい。
- 新型コロナウイルス感染症への対応については、ビジョンや戦略の明確化において、そのことを念頭においた検討を十分に行い、社会課題の解決に貢献するとともに理研 AIP センターの強みを増す有意義な研究を進めていただきたい。
- ただし、新型コロナウイルス感染症への対応に関する AI 研究について、現場から離れた議論や予測・解析結果の提示は却って現場を混乱させるおそれがある。予測・解析結果の質はデータに左右されるものであり、使用したデータのオープン化に取り組むことや予測・解析精度の問題にも適切に対応することが重要である。